



■第8回 京都学・歴彩館府民協働連続講座 都草講演会



6月20日(日)8回目となる都草講演会が泉屋博古館と都草祇園祭研究会とのコラボ企画で、「瑞獣」をテーマに行われました。

第1部は、昨年秋の泉屋博古館開館60周年記念事業の特別展「瑞獣伝来—空想動物でめぐる東アジア三千年の旅」を担当された山本堯学芸員に講演していただきました。東アジアでは吉祥をもたらすとされる瑞獣が尊ばれ、様々な美術品や意匠の重要なモチーフとして表現され、その起源は約3000年前、中国古代の殷・周の時代にまでさかのぼることができます。瑞獣の中でもよく題材に取り上げられる龍、虎、鳳凰を例に挙げ、その始原の姿やその表現方法の変遷について、文献や収蔵品、さらには実際の動物の写真と見比べながら、わかりやすく解説していただきました。

第2部の、祇園祭研究会メンバーによる調査報告「祇園祭 山鉦に見られる動物の調査 —中間報告—」は大変よくまとめられており、アンケートでも「祇園祭の新しい楽しみ方を教えてもらえた」など、嬉しいコメントをいただきました。なかでも134種類にも及ぶ動物の数の多さには山本学芸員も大変驚かれ、改めて祇園祭にかける人々の思いや疫病退散の願いがこの数となって表れているのだろうと、調査研究の成果をまとめ上げたところで対談も終了。祇園祭研究会の今後の活躍に期待が高まります。

コロナ禍で外出しにくい時期でしたが約120名が参加され、翌日には京都新聞にも取り上げられ、講演会に参加できなかった会員にも楽しんでいただけたのではと喜んでおります。(副理事長 松枝 しげ美)



■自己紹介「新部長 三田保則 会員」



今年度から「京都高齢者大学校 ぶらり京のまち歩き」の部長を担当する三田保則です。この講座は、昨年度コロナのために休講になり、今年4月から再スタートをした人気講座です。現在、豊田担当理事や、ガイド担当の皆さんの指導をいただき悪戦苦闘しながら頑張っております。

私は東京生まれの静岡育ちで大阪に就職し、現在は寝屋川市に住んでいます。京都との縁は中学・高校の修学旅行と、大学時代に夏の一か月間、企業実習をしたことです。このため京都大好き人間と自称していますが、京都のことは表面的なことしか知りませんので、更に深く学びたいと思い、一昨年の春に都草に入会した新参者です。

私のモットーは「一生勉強、一生青春」です。常に好奇心を持ち、素直な気持ちで人に学び、何事にも挑戦していくことが心の若さ(青春)であると信じています。定年退職後、「卯清亭三楽(うきよていさんらく)」というペンネームで新しいことに挑戦している真っ最中です。ペンネームの意味は、卯年で、静岡の清水で育ち、①美味しいもの食べ②美味しいお酒を飲み③世の中のため少しでもお役に立つ(恩返し)、この三つを楽しみに生きていきたいとの思いを込めました。

今後、少しでも都草のお役に立つことを肝に銘じて活動して参りますので会員の皆様のご支援、ご指導をよろしくお願い申し上げます。(会員 三田 保則)

■ 大船鉾の龍頭に金箔 粽授与ボランティアは人数縮小



大船鉾が150年ぶりに祇園祭「後祭」の最後尾巡行を果たしてから、早や7年が経過しました。

昨年は新型コロナ蔓延のため山鉾巡行が中止され、各町保存会においても山鉾建ても行われませんでした。今年も巡行は中止されましたが、技術伝承を重視し、前祭で11、後祭では大船鉾を含む6の町が山鉾建てを行いました。

大船鉾は、150年前の禁門の変による火災でそのほとんどを焼失、巡行の復活に際しては白木のままの鉾で後祭のしんがりを飾りました。2年後には、舳先に飾る龍頭を東山区の瀧尾神社の龍頭をモデルに復刻、大金幣との隔年巡行となりました。さらに翌年には、米国のワールド・モニュメント財団の支援を受け念願の会所を取得完成させました。

今年も、これまで白木のままであった龍頭に漆金箔を貼り、大変豪華になりました。更に船尾の艦飾りも新調されるなど、鉾の体裁がますます充実してきました。

祇園祭連合会の方針により、十分な感染対策を取ったうえで一般の方の鉾拝観が行なわれましたが、例年に比べると人数は少ないようでした。私たちボランティアも、事前の粽作りと20日から23日まで粽授与のお手伝いをしましたが、コロナ感染予防と熱中症対策の観点から、参加人数は例年の半分以下と、大幅に人数を制限した活動となりました。来年には、世界中がコロナに打ち勝って元の生活が戻ってくることを信じ、いつも通りの祇園祭となることを楽しみに待っています。

(専務理事 伊藤 義男)



■ 再開されたJTBまちあるき「夕暮れの祇園」



(コース：出雲阿国像前・南座→宮川町→建仁寺→花見小路→祇園白川)

3度目の緊急事態宣言解除から、まん延防止等重点措置に移行直後でしたが、幸いお2人をご案内することができました。

出雲阿国像前では、祇園の概要説明と出雲阿国が歌舞伎発祥となったことを説明。今も唯一残る芝居小屋の南座では、屋根にそびえる短冊「梵天」、顔見世の意味、芝居の語源などに興味を持たれたようでした。

宮川町の風情ある小路を歩きながら置屋とお茶屋について説明しつつ、静かな佇まいの建仁寺に入ると、皆さん一瞬時が止まった印象を受けられたようでした。境内を一周しながら、庭に広がる栄西禅師ゆかりのお茶の垣根や禅寺特有の伽藍配置を説明、更に勅使門に残る源平合戦の弓矢の痕跡をみて800有余年前に想いを馳せておられました。

花見小路では、鍾馗さん、犬矢来、赤い提灯、一力茶屋などの説明に、皆さん感嘆の声をあげて、昔懐かしい日本の街並みを堪能されていました。

重要伝統的建造物群保存地区でお茶屋が立ち並ぶ祇園白川界隈の街並みはテレビドラマで見た風景だと興味を持たれ、辰巳大明神や異橋、かにかくに碑などの説明に、千年の都・京都の悠久の歴史を感じられていました。

お客様からは、祇園には中学校修学旅行やその後1、2度来たことがあるが、ただ歩き回っただけで特別な印象は残っていなかった。ガイドの説明を聞きながらの散策に、祇園の奥深さや町を大切に保存している市民の努力を肌で感じ、非常に楽しいひと時を過ごすことができたこと、感想をいただきました。(会員 島添 道文)